ふるさと東京を考える実行委員会25周年記念

次世代の子供たちのために

東京湾を再生し、日本の未来につなげるフォーラム

実施報告書



2026年10月

NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会

次世代の子供たちのために

東京湾を再生し、日本の未来につなげるフォーラム

－NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会 25周年記念－

日時 10月24日(土)
10:30～16:05

場所 葛西区民館 大ホール
東京都江戸川区中葛西 3-10-1

入場無料 **当日参加OK**

人は経済優先の利便性を求めるばかりに、海を汚し、環境を破壊してきました。僅かな海水温度の上昇さえ、様々な地球規模の気候変動に深刻な影響を及ぼします。
海を汚したのが私たち人間ならば、海を救えるのも私たち人間です。21世紀は〈再生の世紀〉としなければいけません。永遠に大切なものである〈水〉を決して汚してはいけないのです。それを失ってまで便利さを求めてはいけないのです。このままでは、「負の財産」を次世代の子どもに遺すことになります。18世紀の中頃からの産業革命により発展した社会が遺した「負の遺産」は、環境破壊による地球温暖化、資源枯渇、食料問題などはグローバル化し、多様化多極化された問題となっています。地球規模の〈持続可能な社会〉をめざし、私たちは、失った環境を再生し、地球環境そのものを資本とする社会へと大きく転換すべきだと思います。
「環境資本主義」は資源豊富な地球を生かし、枯渇する地球を制御し、大きなバランスの上に成り立ちます。私たちの資本はなんであるか、その本質を顧みる必要があると思います。
資本である海を守ること、再生することは、環境と共生する自然に働きかけて直接富を得る第一次産業〈漁業、林業〉を、この国で復活させることです。
そして、第一次産業の復活は、少子化対策に寄与し、日本を活性化することにつながります。






プログラム

第１部　コンクール表彰の部　10:30～11:30

1. 葛西の海の今と昔（仮題）
   関口理事長
2. 作文・絵画コンクール表彰

休　憩



第２部　25周年記念フォーラム　13:00～16:05

1. 開会挨拶　関口理事長
2. 都知事挨拶
3. 都知事に10万人の署名提出
4. 来賓挨拶
5. 講演　関口理事長
   「東京湾再生」に向けて、今後何を為すべきか（仮題）
6. 活動紹介
7. 閉会挨拶及び石笛演奏　関口理事長・横澤和也

後援　国土交通省、環境省、水産庁、東京都、江戸川区

主催：NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会

お問い合わせ　TEL 03-3869-1992
E-mail info@furusato-tokyo.org

開催概要と開会・来賓挨拶

日時　10月24日 10:30–15:30
会場　葛西区民館大ホール
参加者数　419名

第一部　コンクール表彰 10:30–12:00

開会あいさつ



来賓挨拶



竹平都議会議員



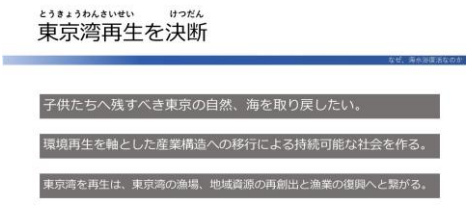
上田都議会議員

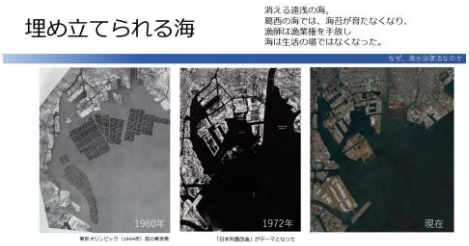
葛西の海の今と昔

講演　関口理事長

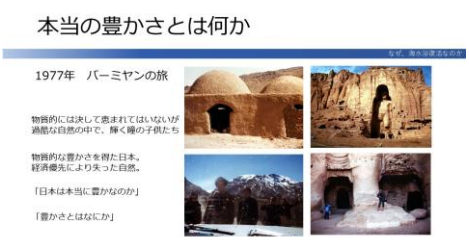












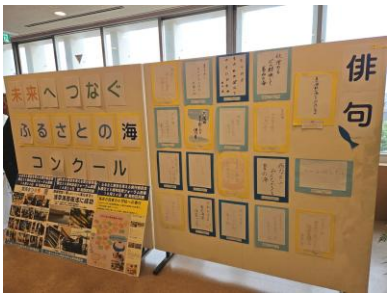


未来へつなぐふるさとの海

コンクール表彰













開会あいさつ

関口理事長



本日は25周年フォーラムにお越し頂きありがとうございます。午前の１部では子供たちが描いた海の絵画や工作、作文、俳句のコンクールの表彰で沢山の子供たちに賞状を渡すことが出来ました。子供たちが作り、えがいた素敵な作品が沢山ありました。美しい自然なくして子供は育ちません。

2部では、次世代の子供たちに豊かな自然を残せるよう、私たちが今までやってきたことなど、皆さんにご紹介、ご提案など出来ればと思います。どうぞお付き合い下さい。もう1時ですから、皆さんお昼の食事はすませたと思います。私はよくお昼にアサリのお味噌汁をお弁当と一緒にいただくのが好きです。あと、そば屋に行くと鴨南ばん蕎麦を好きでよく食べます。ある時、味噌汁のカップの裏を見たらアサリは中国産と書いてあるんですね。美味しいと思って食べていたアサリも蕎麦も鴨も調べると、ほとんど輸入してるんです。愕然としましたね。なんと蕎麦の自給率20%、鴨肉の自給率は７%、アサリは10%です。「和食」は2013年にユネスコの無形文化遺産に登録されましたが、肝心の材料は、ほとんどが輸入です。この現状に怒りを覚えましたね。日本の食糧安保の面からも問題だと思います。ここふるさと葛西の海には、牡蠣が沢山あるんです。牡蠣1個で400リットルの水を浄化します。この牡蠣の水質浄化能力を利用して西なぎさは50年ぶりに海水浴を復活させました。そして、東なぎさでは浅草海苔の原種を発見し養殖も復活させました。今や、江戸川区の小学校に3年連続で毎年1000個のつくだ煮を寄付出来るほど採れるようになりました。実は葛西の海には、スズガモも沢山いますが、浜にいる二枚貝の量に対してスズガモが多すぎるんです。二枚貝が水を浄化しますから、沢山食べられると海は汚れます。昔は、鴨も大事なタンパク源として食べていましたが、今それがないので食物連鎖がうまく出来ていないように感じています。提案したいのは、その地域・地域に合った共生するラムサール条約です。葛西臨海水族園は東京湾再生センターに生まれ変わらせるべきと願っています。このセンターを中心に、今こそ、政党の垣根を越えて、官も民も無く、学系、海に関係する企業など皆で研究、連携し、葛西の海、東京湾、ひいては日本の海全体を豊かにしていければと願っております。

都知事あいさつ

小池百合子東京都知事



本日はお招きを賜りまして、誠にありがとうございます。東京都知事小池でございます。本日は東京湾を再生し、日本の未来につなげるフォーラムのご開催、誠におめでとうございます。
ふるさと東京を考える実行委員会さんは25周年を迎えになりました。
そして次世代の子供たちのために東京湾を再生して日本の未来につなげるということで、フォーラムがこのように盛大に開催されておりますこと、心からお喜び申し上げたいと思います。
関口理事長、そして皆様、四半世紀にわたるご活動、ほんとに敬意を表したく存じます。それもやはり次世代に素晴らしい環境を残そう、海を残していくんだと、そして親しんで泳げる活動ということで展開をされておられます。
今のあの海苔の佃煮はあの私も一ついただいて、白いご飯にピッてかけて食べると本当美味しいですよね。お米も自然の恵みだし、海苔もそうだし、本当にあの私達の食生活は自然とともに有ると言うことを改めて思うところでございます。
葛西の海浜公園、海水浴の復活ということで。まあ最近はですね、プールの存続があやぶまれているような時代、暑すぎてね。それから、海で泳ぐということがもうだんだんコンクリートであちこちが固められてしまってなかなか、泳げるようなところにはなってない。そういった中で是非子供たちを海で泳がせようという思い、大変素晴らしいと思います。そして、このラムサール条約に登録されて、今年で8周年ということでございます。
来月の23日にこの8周年を記念いたしまして、イベントを行う予定にしておりますので、どうぞ ご期待いただきたいと思っております。そして大都市の干潟の保全というのはですね、またあの全国であちこちあります、まあ世界中でラムサールの湿地ということが、あの、登録されてるわけですけど、特に、この大都市に近い、もう東京の中にこれが都内にあるわけですからね、これをどうやって守っていくかっていうのは、本当に大切なことであると同時に、人々の営みと共存するという大切さ、是非これからも子供たち都民の皆さん、このラムサールの登録を受けている葛西海浜公園を楽しんでいただければとこのように思います。
昨年は9月に英国の侯爵でいらっしゃいますエジンバラ公殿下がお出迎えになられました。 自然の体験を子供たちと交流していこうということで大変いい機会になったかと思います。とてもびっくりされたと思いますよ？こんなにあのビルの林のようにニョキニョキと立ってるちょっと目の先にですね、素晴らしいラムサールの湿地が広がっているということ。これこそ共存、そして共生（ともいく）だとこの様に思います。いくつか今関口理事長から課題の方もお伝え頂きました。
これからも豊かな自然を共に未来へとつなげて参る、そしてそのためにじゃあ何をすべきなのか考えなければなりません。どうぞ皆様と力を合わせて全力でこの素晴らしい自然を守って参りましょう。そしてこのそのために今日のフォーラムが意義深いものとなることを期待を申し上げます。
自然への考えを深めて東京湾の再生の輪を広げて参る。
皆様方のこれからのますますのご活動を期待をし、本日のお祝いの言葉とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

10万人署名の提出と来賓挨拶

東京湾をきれいにする10万人署名を小池都知事へ提出









来賓挨拶



静永相談役



大西衆議院議員



江戸川区長



宇田川都議会議員



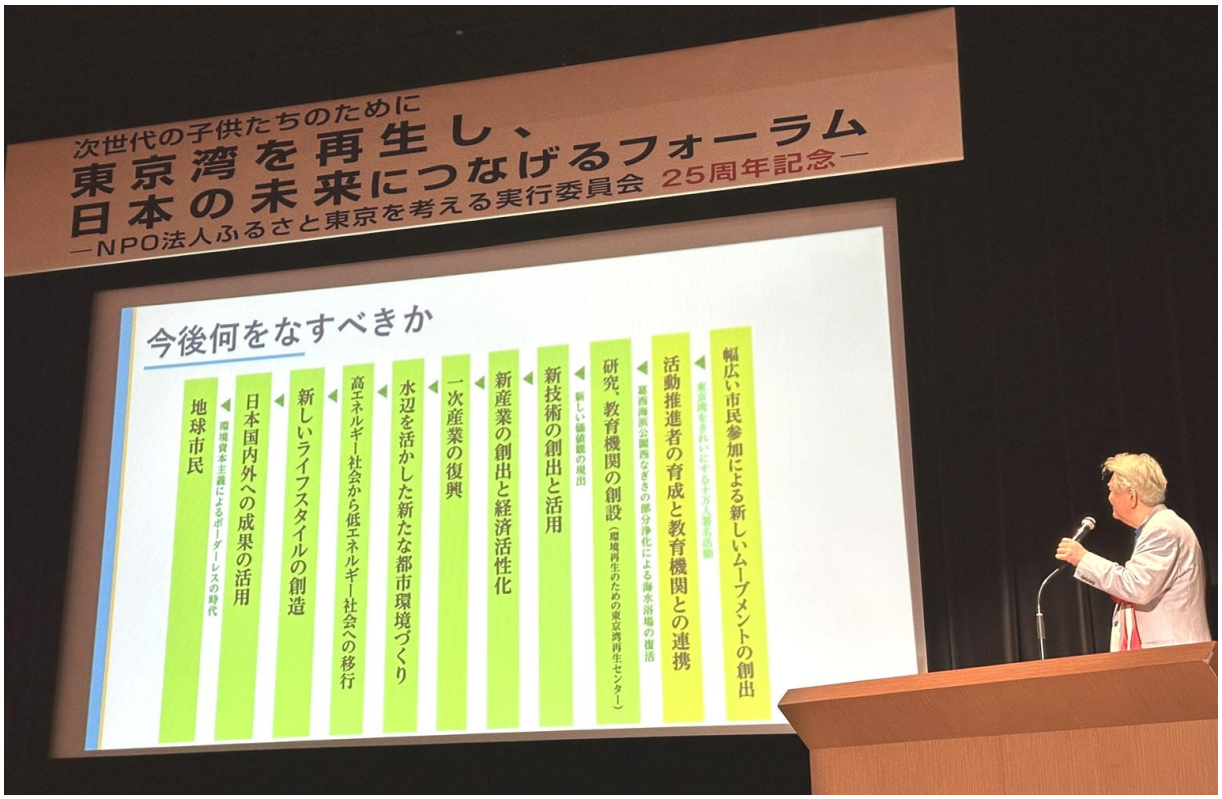
天沼都議会議員

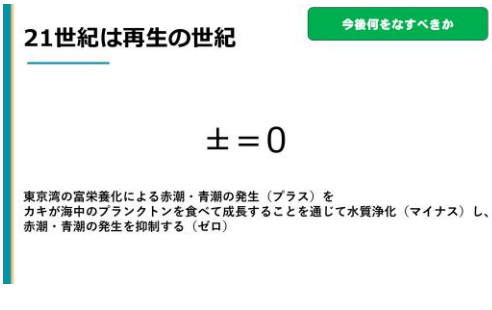


山田都議会議員

東京湾の再生に向けて 今後何をなすべきか

講演　関口理事長











活動報告

芝田理事・石原理事・山本監事・神田理事





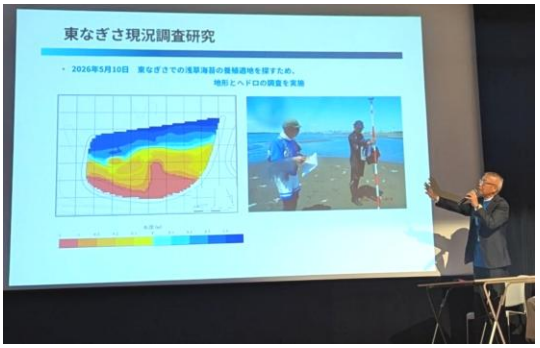
芝田理事



石原理事



山本監事



神田理事

閉会挨拶と石笛演奏

閉会挨拶　関口理事長



石笛演奏





客席の様子





ロビーとスタッフ

ロビー



スタッフ集合写真



新聞掲載記事

The Daily 2026.10.30.fri
SUIKEI
水産経済新聞
https://www.suikei.co.jp

東京湾再生署名10万人達成

―ふるさと東京を考える実行委―

25年記念イベント 小池知事に提出

NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会（関口雄三理事長）は24日、東京・江戸川区の葛西区民館大ホールで25周年記念「次世代の子供たちのために東京湾を再生し、日本の未来につなげるフォーラム」を開いた。

同委員会の過去の活動を振り返り、再生の加速に向けた結集を呼び掛けた。立ち上げ時から開始して今年8月に、ついに目標を達成した「東京湾をきれいにする10万人署名」の目録を来賓として来場した小池百合子知事に手渡した。

午後の第2部には200人を超える人々が詰め掛けた。関口美術館館長で建築家でもある関口理事長は、25年の活動に多くの人が関わってきたと紹介。今後も「垣根を越えた」活動を続け「次世代の子供のためにがんばりたい」と、78歳となった年に改めて決意表明した。

イベントごとに呼び掛けてきた「10万人署名」は8月23日に「10万9991人に達した」として、小池知事に提出をすることを報告した。

祝辞で壇上に登った小池知事は、「ラムサール条約湿地」に葛西海浜公園が登録されていることの意義に言及。ただ、登録条件に深く関わる2万羽の飛来があるスズガモが、水質浄化に貢献する二枚貝を食害している現状があって同委員会から再考を促されていることを念頭に置き、「課題もいただいている。豊かな自然を未来へつなげるために考えないといけない」と述べ、意義深いフォーラムとなることに期待。「10万人署名」の目録を受けた。



小池知事㊧に10万人署名の目録を手渡す関口理事長

関口理事長の「東京湾再生に向けて、今後何をなすべきか」の講演に続いて、同委員会幹部が海水浴の復活、ノリ養殖、ビーチクリーン活動、魚類や「東なぎさ」の現況調査など、直近の活動を紹介。

現在は江戸川区内の小学校に佃煮1000本を毎年、寄付するまでに拡大したノリ養殖を担当する石原友延理事は「自分は（1962年の内湾全漁業者の漁業権放棄まで）ノリ屋の息子だった」と告白。現状の養殖状況を説明し、「ふるさと東京漁業協同組合葛西支部の設立を目指したい」と夢として語った。

一方、神田康嗣理事は小型定置網で行っている魚類調査で「70㌢級のスズキやシラウオ、ハゼなどが（海の浄化が進む中で）非常に豊かになっている」と紹介。活動の中心である「西なぎさ」に加え、放置状態で荒れていた「東なぎさ」を「人に緩やかに管理されたなぎさにする」と話した。

関口理事長は、「東京湾再生はこれから本当に再生に向かっているところだ。ぜひ参加し体験して」と、来場者に活動への合流を呼び掛けて活動報告を締めくくった。

大賞に川﨑さん

午前中の第1部では、関口理事長が「葛西の海の今と昔」と題し、自身が幼少の頃の海の思い出を写真とともに語った。

第5回「未来へつなぐふるさとの海コンクール表彰」の表彰式では、優れた絵画や工作・作文・俳句が評価され受賞した小学生に表彰状と記念品が手渡されたほか、「ふるさと海大賞」に作文で輝いた、西葛西小学校4年の川﨑圭史さんが、タイトル「ぼくのボウズと、葛西の海」を朗読した。